

令和4年度 調布市立滝坂学校 学校経営計画（学校長 小林 美也子）

学校の教育目標	
◎よく考え すすんで学習 ○強いからだ やりぬく心 ○人に親切 仲よく協力 (◎=今年度の重点)	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像【「つくる」「つながる」「つたえる」学校】 ◇「つくる」……児童が変化する社会を主体的に生きるために必要な資質・能力を育成する教育活動を創造する。 ◇「つながる」…①児童の学びと成長のために、教職員・児童・保護者・地域がつながる。 ②互いに学び合い、助け合い、高め合いながら教育活動を進められるように、教職員同士がつながる。 ◇「つたえる」…透明性の高い学校を目指し、教育活動の取組を積極的に保護者、地域に発信する。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○全学年において、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。国語や算数など、将来の進路選択で必要となる教科の基礎基本を児童全員に確実に身に付けさせ、変化する社会を主体的に生きていけるようにすることが課題である。 ○明るく素直な児童、学校教育に協力的な保護者、児童を温かく見守ってくださる地域、組織を通して教育活動に専念する教師など、本校は人的環境に恵まれている。児童の健やかな成長のために、学校と保護者・地域とのつながりをより一層強化していくことが課題である。 ○保護者・地域の方々から信頼される開かれた学校づくりのために、学校からの情報発信を学校だより・ホームページ・安全安心メールなどを通して、日頃からこまめに行っていくことが課題である。
中期的な経営目標	
①・人権教育を基盤とした全教育活動の推進 ・個に応じた特別支援教育の充実 ・いじめ問題の未然防止、早期発見・早期対応 ②・学習習慣の定着と基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ③・基本的生活習慣の確立 ・健康保持や体力向上を図る体育授業及び日常的な取組の実施 ④・保護者や地域と連携した教育活動の充実 ⑤・言語環境の充実と読書活動の推進 ⑥・通常学級、特別支援学級、校内通級教室の組織的連携 人・組・OJT の充実 ・校務分掌の計画的推進 ・服務規律遵守の徹底 ・ライフ・ワークバランスの推進	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① 心の教育活動 ア) 主体的に考え、議論する道徳授業を年間 25 の価値項目で展開する。 イ) 月 1 回の校内委員会及び週 1 回の生活指導夕会で情報共有を十分に行い、全教職員による児童への組織的対応を行う。	① 確かな学力の育成 ア) 授業規律を校内で統一し、定着を図る。秩序ある落ち着いた学習環境の中で児童の「よく考え」「真剣に学ぶ態度」を育成する。 イ) 週案を作成し、授業時数の確保に努める。計画的・意図的に指導を行うとともに、日々の振り返りを必ず行い、授業力を向上させる。	① 心身の健康・運動志向の醸成 ア) 望ましい生活習慣を確立させ、明るくはつらつとした毎日を過ごせるようにする。 イ) 体育科の授業における運動量確保、外遊びの奨励、運動の日常化で健康な心身を育む。 ウ) 調布市感染症予防ガイドラインに基づいた指導を全校で徹底して行う。
②教育環境の整備	② 知識・技能習得、思考・判断・表現力の育成	② 教職員の危機管理意識の向上
ア) 校舎内外清掃と校庭の草花の手入れを充実させ、明るく清新な環境の中で落ち着いた学校生活を送れるようにする。 イ) 異年齢学習集団活動の活性化や人的環境を整え、児童の自己肯定感を高める。	ア) 授業展開に工夫を凝らすとともに ICT 機器を効果的に活用し、児童の興味関心高める授業を実施する。 イ) 校内研究を通して、言葉と向き合うことで読みを深め思考・判断・表現力を伸ばす。	ア) 年 3 回のアレルギー研修及びアレルギー対応訓練の実施を通して、対応マニュアルの周知と確かな理解を図り、教職員の危機管理意識を向上させる。 イ) 避難経路の確認、徹底した安全点検の実施。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① 保護者アンケート「いじめや仲間はずれ等がなく心の教育の成果が表れている」「登校するのが楽しく、充実した学校生活を送っている」肯定的評価 90%以上 ② 保護者アンケート「場に応じた元気なあいさつをしている」肯定的評価 90%以上	① 学校評価アンケートで「子供によく分かる授業の工夫を行っている」で保護者アンケート、教員アンケート共に肯定的評価 95%以上。 ② 校内研究の児童アンケート「読む力が高まった」85%以上	① 学校評価アンケートで「子供たちの体力向上や健康の保持増進への取組が十分に行われている」で保護者アンケート、教員アンケート共に肯定的評価 95%以上。 ③ 食物アレルギー事故及びヒヤリハットの事例皆無。学校施設による事故皆無。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 保護者・地域との連携	5 言語環境の充実・読書活動の推進	6 特別支援教育の推進
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
① ホームページによる発信を適宜行い、保護者・地域に日々の教育活動を周知する。 ② 地域学校協働本部を生かし、地域の外部人材を有効活用する。	① 児童が日常的に言葉に触れ、言葉に興味をもつ環境づくりを行う。 ② 読書に関する計画を年度当初に立て、読書活動の推進を図る。	① 様々な行事、日常的な活動の中で特別支援学級と通常学級との交流を行い、多様性尊重への理解を図る。 ② ひだまり教室(校内通級教室)での指導を在籍学級での指導及び支援に生かしていく。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
① ホームページの更新を毎日実施する。 ② 保護者アンケートの肯定的評価 95%以上。	① 各階で発達段階に応じた「ことば」に関する掲示を計画的に行い、言語環境を充実させる。 ② 各学年の目標読書量の達成。	① 学校評価「心の教育」肯定的評価 90%以上。 ② 通級担当教員の指導記録を毎回必ず確認する。

人材育成・組織運営
ア) OJT の充実……主幹教諭をリーダーとし、校内組織を活用した OJT の充実を図る。(若手教諭の育成・主任教諭の活用) イ) 校務分掌の計画的推進……各委員会を定期的開催し、校内課題の共有と対応方法を確認する。組織運営の見直しを図り、合理化を図る。 ウ) 服務規律遵守の徹底……年間計画に沿って定期的研修を実施する。教育公務員としての自覚を促し、服務事故 0 を目指す。 エ) ライフ・ワークバランスの推進……校務支援システム、ボランティア等の人材を有効活用し、週当たりの在校時間を 60 時間以内とする。